

蔵家わいん通信 11月号

日本のワインブームを振り返る

今、日本人の1年間におけるワイン消費量は1人あたりどれくらいだと思いますか？

国税庁が2019年末に発表した2018年度(2018年4月～2019年3月)の1人あたりの年間ワイン消費量は2.82L。これは750ml瓶換算で3.76本といわれています。

これをワインブームといえるのかは様々な見解がありますが、約50年前からの日本のワイン動向を振り返ると革新が進み、日本人のワインに対する意識は年々高まっているように感じます。

では、ここで約50年前からの日本のワイン動向を振り返ってみましょう。



日本の食生活を変えた「大阪万博」

この頃の日本人のワイン消費量はほぼゼロ。当時の円ドルレートは1ドル＝360円ほどあり、輸入品は大変高価なものとされてきました。しかし、大阪万博を機にフランスやイタリアなどが自国の食文化を広める為、日本の外食産業に次々と介入しました。しかし、外国産ワインの関心はまだ高くなく、国産の甘口赤ワインの需要が多かったようです。

1978年に1ドル＝180円の円高に

円高の影響でワイン＝高価というイメージが払しょくされ、外国産テーブルワインの需要が増加。特にポルトガル「マテウスロゼ」やドイツ「リープラウミルヒ」やフランス「ロゼダンジュ」などが人気。しかし、甘口ワインの需要に偏り渋味ある赤ワイン、フルーティーな赤ワイン、辛口白ワインなどの需要はまだ少なく、本格的なワインブームはこの後に期待されてきました。

バブルともに日本に巻き起こった「ボジョレーヌーヴォー」

ワインブームの火付け役となったのが「ボジョレーヌーヴォー」。11月第3木曜日に解禁という話題性が初物好きの日本人の好奇心をうまく掻き立てました。1985年のプラザ合意で円高が進み、1987年には1ドル＝120円まで上昇しました。しかし、まだワインブームが到来したとは言い難く、特に赤ワインの関心がまだ低いと見立てられていました。

赤ワインブームの到来

第8回世界最優秀ソムリエコンクールにてソムリエの**田崎真也**氏が優勝。日本人では初の快挙としてメディアで取りざたされました。また、タレントの**みのもんだ**氏がTVにてフレンチパラドックスに基づく赤ワイン健康法を紹介。多くの日本人にワインの関心が高まりました。

12月号で1995年～現代をご紹介致します。



【お問い合わせ先】 和・洋酒専門店 **リカーポート蔵家**

〒194-0037 東京都町田市木曽西1-1-15 TEL: 042-793-2176 FAX: 042-793-2177

E-Mail: machida@kura-ya.com 営業時間: 9時30分～20時 <月曜定休日>

